



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**(共通)**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1217		
科目名	日本を考える		
担当教員			
対象学年	1年,2年	開講学期	後期
曜日・時限	金 5		
講義室	オンライン	単位区分	選
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	総合教育		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	リテラシー		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>DP2-A〔日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢〕地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。</p> <p>DP2-B〔自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢〕自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。</p> <p>DP3-G〔状況把握力・判断力〕自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。</p> <p>DP3-H〔理論的思考力・批判的思考力〕理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。</p> <p>DP4-F〔探求力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。</p> <p>DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。</p> <p>DP6-K〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。</p> <p>DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。</p> <p>DP7-L〔協働力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。</p> <p>DP8-M〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状況に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。</p> <p>■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (C R) との関連</p> <p>A1 グローバル感覚 (10%) B1 自己啓発 (20%) C1 倫理的思考・社会認識 (10%) F1 探究と論拠 (10%) G1 状況把握 (10%) H1・H2 論理的思考・批判的思考 (10%) I1・I3 理解・分析と読解・情報分析 (10%) K1・K2 ライティングコミュニケーション・オーラルコミュニケーション (10%) L1 チームワーク (5%) M1 総合的・応用的学修 (5%)</p>		

教員の実務経験	—						
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージと対応 2 進学期～3 発展期						
科目概要・キーワード	日本文化、日本の労働と格差のあり方、日本が直面している地球環境問題の現状、日本の家族のあり方から、日本の先端技術に至るまで、日本の歴史、文化を理解したうえで、日本の過去・現在そして未来を立体的に学修します。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、オンラインで授業を行います。 ■キーワード: 日本文化、労働と格差、地球環境問題、家族、先端技術						
授業の趣旨	(1) 異文化を尊重しつつ、日本の特性を理解して伝えたり、我が国が直面する社会問題の解決法を見出したりするために、グループ学修の場で、自らの考えを他者と述べ合い、課題を議論し合うことを通じて、コミュニケーション力や問題発見・解決力を修得する。 (2) 自己を省察して自らの今後の学び方や生き方を自覚するために、多様な観点から日本を見つめ、国際社会など世界とのつながりを認識し、自己の立ち位置を理解する。						
総合到達目標	①日本の社会常識に関する知識を活用し、自己の世界観を持って倫理的な課題を説明してその課題に向き合うことができる。 ②異文化を尊重しつつ、日本の歴史、政治、経済、文化、日本人の価値観、信条などの現状を概説できる。 ③世界情勢から見た日本が直面する社会問題を列挙し、客観的な情報を基に論理的・批判的に考察できる。 ④世界情勢から見た日本が直面する社会問題について現状を分析し、解決方法を提示できる。 ⑤日本人や日本の文化、社会に興味をもち、新しいことに挑戦する気持ちで、課題に取り組むことができる。 ⑥グループ内及びグループ外の人々とのコミュニケーションを通じて、相互に意思を伝達できる。 ⑦グループメンバーとの連携によって、指導者のもとでより良い成果を上げるための作業を成し遂げることができる。 ⑧自己の学修に関する経験と考えを振り返り、これからの学びや人としての生き方に活かすことができる。						
成績評価方法	成績評価は「自己学修シート」(36%)、「協働カチェック」(24%)、「中間レポート」(10%)及び「期末レポート(30%)」とする。「自己学修シート」は、10回目と15回目の授業回以外において、事前学修と授業中に活用し、課題に対する記述の内容や状況によりルーブリックに基づいて評価する。「協働カチェック」は、各ユニットおけるグループワーク等の協働作業での対応状況について、ルーブリックに基づいて評価する。レポートは、授業において取扱った内容を踏まえ、設題に対して適切な回答がされているか、ルーブリックに基づいて評価する。 また、上記の配点に基づき、60点以上を合格とするが、以下の要件を満たさない場合、60点以上であっても不合格とし、59点とする。 ・「自己学修シート」と「協働カチェック」の評価点が合計30点未満 ・中間レポート及び期末レポートの合計が24点未満						
履修条件	同時双方向型のオンライン授業であるため、PC等の端末及び通信環境等の対応が可能なこと						
履修上の注意点	—						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>①日本を考えよう ②オンラインで使用するツールの説明・確認/科目の概要や成績評価等の説明/第1回用の学修動画の視聴/グループワーク ③【事前学修】 1時間 シラバスを熟読し、この科目の趣旨や目的、授業方法などを事前に理解する。また、「ミライツククル-Learning Guide」と日本大学ホームページから「教育の目的」「日本大学教育憲章」を見ることで「日本大学マインド」を理解する。 ④【事後学修】 2時間 授業で見た動画を再度視聴し、次回からの授業の流れを理解しておく。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>①近代に向かう日本① ②授業ガイダンス/グループ討議A(自己学修シート1の内容を踏まえ、グループ内で意見共有を行う)/グループ討議B(グループを交換し、グループ討議Aでの内容を紹介し合う)/グループ討議Aのグループに戻り意見集約/自己学修シート1の回収と次回の予告 ③【事前学修】 2時間 ユニット1の動画を視聴し、その動画に現れた事象以外に明治時代になって変わったことを調べ、それらの事象に対して、自分は何を思い、どう評価するのか「自己学修シ-</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①日本を考えよう ②オンラインで使用するツールの説明・確認/科目の概要や成績評価等の説明/第1回用の学修動画の視聴/グループワーク ③【事前学修】 1時間 シラバスを熟読し、この科目の趣旨や目的、授業方法などを事前に理解する。また、「ミライツククル-Learning Guide」と日本大学ホームページから「教育の目的」「日本大学教育憲章」を見ることで「日本大学マインド」を理解する。 ④【事後学修】 2時間 授業で見た動画を再度視聴し、次回からの授業の流れを理解しておく。	2	①近代に向かう日本① ②授業ガイダンス/グループ討議A(自己学修シート1の内容を踏まえ、グループ内で意見共有を行う)/グループ討議B(グループを交換し、グループ討議Aでの内容を紹介し合う)/グループ討議Aのグループに戻り意見集約/自己学修シート1の回収と次回の予告 ③【事前学修】 2時間 ユニット1の動画を視聴し、その動画に現れた事象以外に明治時代になって変わったことを調べ、それらの事象に対して、自分は何を思い、どう評価するのか「自己学修シ-
回	内容						
1	①日本を考えよう ②オンラインで使用するツールの説明・確認/科目の概要や成績評価等の説明/第1回用の学修動画の視聴/グループワーク ③【事前学修】 1時間 シラバスを熟読し、この科目の趣旨や目的、授業方法などを事前に理解する。また、「ミライツククル-Learning Guide」と日本大学ホームページから「教育の目的」「日本大学教育憲章」を見ることで「日本大学マインド」を理解する。 ④【事後学修】 2時間 授業で見た動画を再度視聴し、次回からの授業の流れを理解しておく。						
2	①近代に向かう日本① ②授業ガイダンス/グループ討議A(自己学修シート1の内容を踏まえ、グループ内で意見共有を行う)/グループ討議B(グループを交換し、グループ討議Aでの内容を紹介し合う)/グループ討議Aのグループに戻り意見集約/自己学修シート1の回収と次回の予告 ③【事前学修】 2時間 ユニット1の動画を視聴し、その動画に現れた事象以外に明治時代になって変わったことを調べ、それらの事象に対して、自分は何を思い、どう評価するのか「自己学修シ-						

	<p>ト1」にまとめておく。</p> <p>④【事後学修】 2時間 グループ内討議の内容を振り返る。出された意見の中に登場する事象を調べ、「なぜ取り入れたのか」「なぜ消えたのか」などの事実を確実に理解できるようにする。</p>
3	<p>①近代に向かう日本② ②授業ガイダンス/グループ討議A(自己学修シート2の内容を踏まえ、グループ内で討議する)/グループ間討議(他のグループと合同で討議を行い、広く意見を共有し合う)/グループ討議Aのグループに戻り意見集約/学生同士の協働カチェック/自己学修シート2の回収と次回の予告</p> <p>③【事前学修】 2時間 ユニット1の動画を再度視聴し、日本が近代化するにあたって対外的にどのような視点を持っていったのか、その是非を踏まえて各自で考えて「自己学修シート2」にまとめてくる。</p> <p>④【事後学修】 2時間 授業で取扱った事例について、さまざまな参考文献、インターネットなどを通して理解を深めていく。</p>
4	<p>①日本文化の特徴を考える① ②授業ガイダンス/グループ討議A(自己学修シート3の内容を踏まえ、グループ内で討議し、最重要課題を決定する)/グループ討議B(グループを交換し、グループ討議Aで決めた最重要課題を紹介し合う)/グループ討議Aのグループに戻り意見集約(グループ討議Bを踏まえ、最重要課題を再考する)/自己学修シート3の回収と次回の予告</p> <p>③【事前学修】 2時間 ユニット2の動画を視聴し、「自己学修シート3」を用いて、自分なりの意見をまとめておく。</p> <p>④【事後学修】 2時間 授業で取扱ったテーマについて、本、雑誌又はインターネット等で各自確認したり、実際に体験してみたりする。</p>
5	<p>①日本文化の特徴を考える② ②授業ガイダンス/グループ討議A(自己学修シート4の内容を踏まえ、グループ内で討議する)/グループ間討議(他のグループと合同で討議を行い、広く意見を共有し合う)/グループ討議Aのグループに戻り意見集約/学生同士の協働カチェック/自己学修シート4の回収と次回の予告</p> <p>③【事前学修】 2時間 ユニット2の動画を再度視聴し、「自己学修シート4」を作成する。さらに、グループで決定した最重要課題について、自分なりの新しい考えをまとめておく。</p> <p>④【事後学修】 2時間 授業で取りまとめた提案について、本、雑誌又はインターネット等を通して確認したり、実際に体験してみたりする。</p>
6	<p>①日本の労働と格差のあり方① ②授業ガイダンス/グループ討議A(自己学修シート5の内容を踏まえ、グループ内で討議し、最重要課題を決定する)/グループ討議B(グループを交換し、グループ討議Aで決めた最重要課題を紹介し合う)/グループ討議Aのグループに戻り意見集約(グループ討議Bを踏まえ、最重要課題を再考する)/自己学修シート5の回収と次回の予告</p> <p>③【事前学修】 2時間 ユニット3の動画を視聴し、日本の労働と現代社会の格差の現状について「自己学修シート5」を用いてまとめる。</p> <p>④【事後学修】 2時間 授業を振り返り、様々な意見や考えがあることを理解する。</p>
7	<p>①日本の労働と格差のあり方② ②授業ガイダンス/グループ討議A(自己学修シート6の内容を踏まえ、グループ内で討議する)/グループ間討議(他のグループと合同で討議を行い、広く意見を共有し合う)/グループ討議Aのグループに戻り意見集約/学生同士の協働カチェック/自己学修シート6の回収と次回の予告</p> <p>③【事前学修】 2時間 ユニット3の動画を再度視聴し、「自己学修シート6」を作成する。さらに、前回の授業の際に、自グループで挙げられた最重要課題(日本の労働と格差をめぐる社会的課題)を、どのように解決するかを考える。</p> <p>④【事後学修】 2時間 授業を振り返り、様々な意見や考えがあることを理解する。</p>

8	<p>①日本が直面している地球環境問題の現状①</p> <p>②授業ガイダンス／グループ討議A（自己学修シート7の内容を踏まえ、グループ内で討議し、最重要課題を決定する）／グループ討議B（グループを交換し、グループ討議Aで決めた最重要課題を紹介し合う）／グループ討議Aのグループに戻り意見集約（グループ討議Bを踏まえ、最重要課題を再考する）／自己学修シート7の回収と次回の予告</p> <p>③【事前学修】 2時間 ユニット4の動画を視聴し、地球環境問題の現状について、「自己学修シート7」を用いて、自分の意見や考えをまとめておく。</p> <p>④【事後学修】 2時間 授業で取りまとめた現状と課題について、ニュース、新聞又はインターネット等で確認してみる。</p>
9	<p>①日本が直面している地球環境問題の現状②</p> <p>②授業ガイダンス／グループ討議A（自己学修シート8の内容を踏まえ、グループ内で討議する）／グループ間討議（他のグループと合同で討議を行い、広く意見を共有し合う）／グループ討議Aのグループに戻り意見集約／学生同士の協働力チェック／自己学修シート8の回収と次回の予告</p> <p>③【事前学修】 2時間 ユニット4の動画を再度視聴し、「自己学修シート8」を作成する。さらに、授業で取りまとめた現状と課題に基づき、自分達に実行可能な対策案について、自分の意見や考えをまとめておく。</p> <p>④【事後学修】 2時間 授業で取りまとめた現状と課題及び自分達に実行可能な対策案について、ニュース、新聞又はインターネット等で確認してみる。</p>
10	<p>①中間振り返り</p> <p>②授業ガイダンス／グループ討議A（中間レポート準備シートをグループ内で紹介し合う）／中間レポートの作成（321～400字でまとめる）／中間レポートの回収と次回の授業予告</p> <p>③【事前学修】 2時間 中間レポート課題作成に向けた考察をするために、「中間レポート準備シート」を用いて、ここまで学んできた4つのテーマ（ユニット）の中で、最も興味があったもの、さらに探求したいものを明確にし、まとめてくる。</p> <p>④【事後学修】 1時間 これまで学修してきたユニット1（近代に向かう日本）、ユニット2（日本文化）、ユニット3（労働と格差）又はユニット4（地球環境問題）の中で、特に興味のある分野について、より深く理解するために、ニュース、新聞又はインターネット等で関連する内容を確認し、改めて考える。</p>
11	<p>①日本の家族のあり方①</p> <p>②授業ガイダンス／グループ討議A（自己学修シート9の内容を踏まえ、グループ内で討議し、最重要課題を決定する）／グループ討議B（グループを交換し、グループ討議Aで決めた最重要課題を紹介し合う）／グループ討議Aのグループに戻り意見集約（グループ討議Bを踏まえ、最重要課題を再考する）／自己学修シート9の回収と次回の予告</p> <p>③【事前学修】 2時間 ユニット5の動画を視聴し、「自己学修シート9」を用いて、これまでの日本の家族のあり方が、現在、どのように変化しているかをまとめる。</p> <p>④【事後学修】 2時間 授業を振り返り、様々な意見や考えがあることを理解する。</p>
12	<p>①日本の家族のあり方②</p> <p>②授業ガイダンス／グループ討議A（自己学修シート10の内容を踏まえ、グループ内で討議する）／グループ間討議（他のグループと合同で討議を行い、広く意見を共有し合う）／グループ討議Aのグループに戻り意見集約／学生同士の協働力チェック／自己学修シート10の回収と次回の予告</p> <p>③【事前学修】 2時間 ユニット5の動画を再度視聴し、「自己学修シート10」を作成する。さらに、前回の授業の際に、グループで考えた最重要課題を、どのように解決するか考える。</p> <p>④【事後学修】 2時間 授業を振り返り、様々な意見や考えがあることを理解する。</p>
13	<p>①日本の最先端から考える未来①</p> <p>②授業ガイダンス／グループ討議A（自己学修シート11の内容を踏まえ、グループ内で討議し、最重要課題を決定する）／グループ討議B（グループを交換し、グループ討議Aで決めた最重要課題を紹介し合う）／グループ討議Aのグループに戻り意見集約（グ</p>

	<p>ループ討議Bを踏まえ、最重要課題を再考する) / 自己学修シート11の回収と次回の予告</p> <p>③【事前学修】 2時間 ユニット6の動画を視聴し、「自己学修シート11」を用いて、そこで取り上げられている分野の最新状況が、過去の事象と繋がりがああることを把握する。その中で自分が最も興味のある分野を選び、その事柄について、自分の身の回りで実際に感じる状況などと突き合わせ、そのことが現在の自分の生活、社会とどう関わっているかを考察する。</p> <p>④【事後学修】 2.5時間 ユニット6の動画を再度視聴し、「自己学修シート12」を作成する。さらに、1回目の選んだ事柄(分野)についての最重要課題について、動画では見えてこなかったことや問題点を書籍、新聞又はインターネット等を活用し、その事柄が未来へ展開した時の姿をイメージするために、自分で調査・分析をする。</p>
14	<p>①日本の最先端から考える未来② ②授業ガイダンス/グループ討議A(自己学修シート12の内容を踏まえ、グループ内で討議する)/グループ間討議(他のグループと合同で討議を行い、広く意見を共有し合う)/グループ討議Aのグループに戻り意見集約/学生同士の協働カチェック/自己学修シート12の回収と次回の予告</p> <p>③【事前学修】 2時間 ユニット6の動画を再度視聴し、「自己学修シート12」を作成する。さらに、1回目の選んだ事柄(分野)についての最重要課題について、動画では見えてこなかったことや問題点を書籍、新聞又はインターネット等を活用し、その事柄が未来へ展開した時の姿をイメージするために、自分で調査・分析をする。</p> <p>④【事後学修】 2.5時間 授業で取り組んだことを参考又はきっかけにして、自分で興味があることの未来の姿を考え、日本や世界にどう貢献するのか、その中での自分の姿をシミュレーションしてみる。</p>
15	<p>①自ら道をひらく(自己省察と総括) ②授業ガイダンス/グループ内討議(期末レポート準備シートをグループ内で紹介し合う)/期末レポートの作成(641~800字でまとめる)/期末レポートの回収と授業の総括</p> <p>③【事前学修】 3時間 期末レポート課題作成に向けた考察をするために、「期末レポート準備シート」を作成し、これまでのすべての授業を振り返り、これらの中から浮かび上がる日本の特質又は日本人の気質を考えてくる。</p> <p>④【事後学修】 2時間 期末レポート課題作成にあたって、参考にした他者の意見や考えを整理し、この授業における学修成果を今後の学びや自身の生き方にどう活かすかをシミュレーションしてみる。</p>
関連科目	「自主創造の基礎 (RMGT/SSCS1215)」
教科書	ミライヨツクル Learning Guide (日本大学FD推進センター)
参考書・参考URL	—
連絡先・オフィスアワー	担当教員として三軒茶屋キャンパスから危機管理学部・瀧川修吾教授が参加します。 質問等は以下メールアドレスにお願いします。 ■連絡先 takigawa.shugo@nihon-u.ac.jp
研究比率	

